

SCP: サイトー??收容違 反 記録

ユキヅル

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ここはSCP財団???支部のサイト―??. ある日、SCP―682が收容違反を起こす。

取り残されたDクラス職員や研究員、SCPの再收容に向かう九尾狐。彼らは全員無事脱出に成功するのか!?

目次

プログラグ

1

プロローグ

ここはSCP財団のエリアー??。ここには何人ものDクラス職員がいた。その一人、D-15896のセルに

警備担当が二人来た。何かの仕事らしい。

警備A「D-15896、仕事だ。付いて来い。」

D-15896「はいはい、分かりましたよ。」

彼は警備担当について行く。途中、警備担当の片方が標識を見た。

警備B「SCP-079?そんなのあったか?」

警備A「ああ、最近オーストラリア支部から運ばれてきたやつだ。ほらよ、」

彼は仲間にSCP-079のドキュメントを手渡した。

警備B「ありがとな。後で読むか。」

それに興味を示したのは、彼らについて行くD-15896だった。

D-15896「SCP-079?なんだ、そ..」

警備B「貴様らDクラスには関係ない。そうだ、今から仕事について説明する。」

彼は続けた。

警備B「これから貴様には、とあるSCPの破壊における後始末をしてもらう。まず、実験を行う。」

その後、対象のSCPが終了されたかに関わらず、破壊に用いたSCPが收容されたかを確認して

もらおう。分かったな。」

D—15896「分かりましたよ。で、それまで俺はどこで待ってれば？」

警備A「我々が貴様を破壊用のSCPの收容室へ連れて行く。そこで待機しろ。」

こうしてD—15896は收容室は連れて行かれた。

その頃、エリア―??の上空では、機動部隊イプシロン―11こと九尾狐が待機していた。

その隊長、アルスが收容違反がもし発生した場合に備えていた。

アルス「いいか、これから施設ではSCP—682をSCP—106を用いて終了する実験が行われる！」

我々の目的は、可能な限りの研究員などの脱出の支援、およびDクラス共の連行だ。

そして、SCP—106の再收容を確実に遂行しなければならない！」

そして実験が開始、DクラスがSCP-682のいる室内に連れて行かれた。

彼はアキレス腱を切断された。その途端、絶叫を上げる。

SCP-106が早くも声を聞きつけた。彼はコンテナの出口から収容室へ出た後、

SCP-682らのいる部屋に向かった。Dクラスをポケットテイメンジョンに引きずり込んだ後、

SCP-682を攻撃しようとした。

SCP-682「グオオオオオ！」

SCP-682は尻尾でSCP-106を吹き飛ばしたが、彼の尾は“腐食”された。

腐敗は体中に広がった。彼は苦しんだ。しかし、彼は体を再生させ、

SCP-682「お前も、お前を私にけしかけた奴らも、皆殺しにしてくれる！」

と部屋を破壊し、脱走。SCP-106もSCP-682には効果が無いと思ったのか、退散した。

そして、放送が施設内に響いた。

「警告！SCP-682、SCP-106が脱走した模様！」

悪夢が、始まった。